

代々木公園デング熱対策に参加して

●文・写真：アベックス産業(株) 代表取締役 学術博士
元木 貢



■デング熱出動の背景

（公社）東京都ベストコントロール協会は東京都と協定を結び、感染症患者宅の消毒、水害や大島土砂災害の防疫作業などに取り組んできました。また、全米に広がったウエストナイル熱の侵入に備えて、都内16カ所の公園で、蚊のサーベイランスとして蚊の採集を受託し、蚊の同定やウイルス検査に協力してきています。発生時に備えて、平成22年に蚊駆除の協定を締結し、感染症予防衛生隊の整備やマニュアル作成、蚊駆除試験などを進めてきました。

■70年ぶりにデング熱国内感染発生

昨年の8月27日に、約70年ぶりに厚生労働省からデング熱の国内感染がプレス発表されました。翌28日に、患者の10代の女性が代々木公園で蚊に刺されたことが判明しました。これを契機に、代々木公園をはじめ近隣の公園、台東区目黒区、千代田市そして遠くは兵庫県西宮市で蚊に刺されて発症した人が続出し、総計162名にも上りました。

■駆除作業に出動

都との協定に基づき、昨年8月28日昼に連絡を受け代々木公園で打合せ、同日午後5時から蚊に刺されたと思われる地点から半径75mに動力噴霧機により薬剤散布を行いました。9月5日に2回目の作業があり、蚊の調査結果から対象場所は公園



▲昨年8月28日、代々木公園にて

の蚊の多い箇所全般に広げ、貴重な生物種に配慮して、手動噴霧器による作業となりました。その後3回の作業で終了しました。その他、上野公園、新宿御苑、青山公園などで同様の作業を行っています。深い茂みのある区域や下水溝には炭酸ガス製剤も使われました。

■デング熱とは

日本ではヤブカとして知られているヒトスジシマカにより媒介されます。背面に白い縦筋が1本あり、脚に白い斑があり、昼間吸血活動を行います。デング熱ウイルスを保有した蚊に刺されると3〜7日（最大2〜15日）で発症します。発症すると高熱が出て、発疹、頭痛や関節痛、筋肉痛などに見舞われ、入院を要するまでに至り、重症化するとデング出血熱となります。また、発症する前日からその後5日間の期間に別の蚊に刺されると、デング熱ウイルスはその蚊の体内に転移・増殖し、その蚊が媒介となり、他の人を吸血すると次々と人に感染します。

昨年感染したタレントの紗綾さんは、「王様のブランチ」のロケ中に代々木公園を訪れ「両足で33カ所、手にも数カ所刺された。一週間後にいきなり高熱が出て、眼の奥が痛くなつて頭痛がひどくなった」と明かし、「40度くらいの熱が出て、発疹もひどく手足が真っ赤に腫れ上がって『痛痒い』感じが嫌でした。氷枕で冷やしながら生活していました」と証言しています。

■デング熱の予防対策

①建物の周囲の溜まり水をなくす。②庭や道路の雨水枡には昆虫成長制御剤を月1回散布する。③肌を露出（長袖、長ズボンを着用）しない。④外で作業するときは虫除けスプレーを使



▲都の蚊駆除キャンペーンポスター

用する（ディート《昆虫忌避剤》10%製剤で3時間程度有効）。⑤樹木の茂みなどには定期的に成虫駆除を行う。などの対策が必要です。

■デング熱が発生したら

ヒトスジシマカの多くはあまり移動せず、せいぜい50〜100mと報告されています。ところが、ウイルスを持った蚊は発症が判った日から1カ月ほど前には存在しているので、その間に移動することを考えると、蚊の生息する場所はすべて処理する必要があります。

■今年の動向

今年に入ってから6月24日現在までの間に、すでに110名が海外で感染し、日本で発症しています。医師会が協力して診断に努めています。この数は昨年以上に増えそうです。

また、感染した人の半分は症状がでないのに、知らずに外出して蚊に刺され、その蚊が媒介となり他の人が感染していることもありそうですので、予断を許しません。

東京都では代々木公園を含みさらに9カ所で蚊のサーベイランスを開始し、都民には電車の中内広告やバスの車体広告などで、蚊駆除のキャンペーンを呼びかけています。